

【第六回】「漢字（五体）の基本と書き方」
— 行書② 代表的な古典の特徴 —

常葉大学教授
本誌編集委員 平形 精逸

◇はじめに
先月は行書の範囲や古典の流れを追いましたが、今回は、行書の特徴を捉えた後、代表的な古典を取り上げます。それらの表現上の特徴や書き方をまとめ、多様な書美を鑑賞しましょう。

■行書の特徴

中学校の書写や高等学校の書道Ⅰの教科書には、行書の特徴として五つが挙げられています。それらを整理すると図1のようにまとめることができます。

古典例は筆路の明快な王羲之の「蘭亭序」（神龍半印本）から二字ずつを示しましたので解説と合わせて確かめてみましょう。

5	4	3	2	1	特 徴	古 典 例 (蘭亭序)	解 説
筆順が変化することがある	点画が短少化し、省略されることがある	点画間に筆脈が表れ、連続することがある	点画の形や方向などが変化する	点画に丸みがつく（曲線化する）			
							
							
「至」の点のような行書特有のものと、「無」のような小学校と異なる筆順の場合がある。	「足」のような書写体の連続による略化や、へんの最終点のような吸収略化などがある。	筆脈が実線化する場合が多いが、他に「賢」の2、3画のように二画が一画化する直接連続がある。	楷書の許容される形と関連し、画の長短や収筆の変化（右はらいの止め）など随所にみられる。	起筆は送筆方向へすぐ連筆するので下辺に丸みがつく。転折部は止めないので曲線化する。			

図1 行書の特徴

■宋の四大家

なお、基本的な段階では、連続と省略はほぼ比例すると考えてよいでしょう。特に簡潔性を重んじる書写では、連続線が生じた分、実画を略したりして「実線を一定に保つ」工夫をすることが大切です。次の「玉」では削った四画分（点線部分）が連続線に移動したと考えます。

玉

唐 虞世南
孔子廟堂碑

玉

東晋 王羲之
興福寺断碑

「法」を重んじる唐代を経て、宋代は「性」すなわち人間的な自覚が意識された時代です。「宋の四大家」のうち、図2の三人の先駆的存在・蔡襄（一〇二一〜一〇六七）は、王羲之と顔真卿を共に学び、気骨あふれる「清爽」な書として評価されています。

次に、ほぼ同時代に活躍した三人の個性的な書を比較してみましょう。

■明清の書家

明末期は董其昌をはじめ王鐸・黃道周・倪元璐・張瑞圖・傅山らが、長条幅という新しい表現形式に行草体を発表しました。中でも王鐸は戦後、わが国に多くの信奉者を輩出しました。また、清代では、碑学派の、隸書をよくした何紹基、清代末期の詩・書・画・篆刻に秀でた趙之謙と石鼓文をよくした吳昌碩の行書作品が目立ちます。

宋の四大家（蔡襄を除く）			人物
米芾（号 元章）	黄庭堅（号 山谷）	蘇軾（号 東坡）	
1051〜1107	1045〜1105	1063〜1101	生 没
			イメー ジ 図
蜀素帖	松風閣詩卷	黃州寒食詩卷	代 表 作
			作 品
優美・温雅	俊敏・俊健	重厚・豪放	特 徴
蜀素とは蜀で作った絹のこと。二王風の美しさを備え、八面出鋒で自在に動く巧みさ抜群。	松林に建つ樓閣を松風閣と名づけた際の自作詩。長くそりぎみの横画、軽妙な左払いが目立つ。	寒食節に黃州流罪中の憂悶を託して作った二首。線の軽重、遅速、文字の大小など変化に富む。	

図2 宋の四大家（蔡襄を除く）の比較

何紹基（一七九九〜一八七三）山谷題跋語四屏（部分）

趙之謙（一八二九〜一八八四）行書七言聯（部分）

吳昌碩（一八四四〜一九二七）詩稿（部分）



図4 [鑑賞資料] 青山杉雨先生 書

- ① 東晋時代の王羲之書法による行書
- ② 宋時代の蘇軾・米芾書法による行書
- ③ 宋時代の黄庭堅書法による行書
- ④ 清時代の何紹基書法による行書
- ⑤ 清時代の趙之謙書法による行書
- ⑥ 清時代の呉昌碩書法による行書



〈星 弘道先生 書〉



左作品の部分

上掲の「日本大百科全書」は、七月号同様、青山杉雨先生（文化勲章受章者、一九一〇〜一九九三）による行書古典の倣書です。古典の特徴と比較し個性的な味わいを鑑賞しましょう。左は星弘道先生が、論語学而篇を単体行書で書かれたもので、韻致の高い風趣が感じられます。少し草書も混じっています。大東文化大学新四号館に掲げられています。

■生活の中の行書

■「三筆」と「三跡」

わが国では奈良時代に王羲之の書が将来され、用と美を兼有する行書がよく書かれるようになりました。平安時代初期を代表する三人の能書家は「三筆」とよばれ、晋・唐の中国書法をよく学びました。空海と並び当時の仏教界の双璧をなす最澄も入唐し、清らかな書を残しました。遣唐使が廃止されて以降、中期には国風化がすすみ、日本の風土や日本人の感性にあった書風が創造されました。この和様書道を完成させたのが「三跡」といわれる能書家です。図3によって両者の違いを比較しましょう。

なお、和様に対して平安初期の書風を唐様とは呼ばないので注意しましょう。唐様とは、美術の方では中国から移入された鎌倉時代の建築様式、書道では江戸時代に流行した中国風の書のことをいいます。



カット・橋本綾乃

三 跡			三 筆			人物
ふじわらのゆきなり 藤原行成	ふじわらのすけまさ 藤原佐理	おののとうふう 小野道風	たちばなのはやなり 橘 逸勢	き が てんのう 嵯峨天皇	くう かい 空 海	
972~1027	944~998	894~966	?~842	786~842	774~835	イメー
						ジ図
はくし し かん 白氏詩巻	し かい し 詩懐紙	びょう ふ ど たい 屏風土代	い と ない しんのう かんもん 伊都内親王願文	こうじょう かい ちやう 光定戒牒	ふうしん じやう 風信帖	代表作
						作 品
中国の白楽天の詩集の一部を 書写した巻物。道風の和様を 継承し、さらに洗練させ、 完成に導く。	漢詩七言二句の書いてある 懐紙。字形整い筆力は充実 し、線には緩急抑揚の変化 がある。	大江朝綱の詩を書いた時の 下書き。字形は端正。穂先 を回転させ、重厚温雅な趣 きを出している。	桓武天皇の第八皇女（在原 業平の母）の願文。筆を自 在に駆使し、強弱を加えて 律動性を発揮している。	最澄の弟子光定の戒牒を天 皇自ら認める。義之、欧陽 詢の影響を受け多彩で高雅 な書風を確立した。	空海が最澄にあてた書簡三 通の総称。王羲之書法をふ まえ、重厚で日本の情趣を 加味している。	特 徴

図3 三筆・三跡の比較